

議案第112号 令和4年度大津市水道事業会計の決算の認定について

それでは、令和4年度大津市水道事業会計の決算について、ご説明いたします。「令和4年度大津市公営企業会計決算書」の17ページをお開き下さい。「令和4年度大津市水道事業報告書」です。

「1概況」、「(1)総括事項」ページ中ほどの「ア給水状況」をご覧ください。

令和4年度の年間配水量は、3,930万4千 m^3 で、対前年度、25万4千 m^3 の減となりました。有収水量は3,780万1千 m^3 で、対前年度、34万8千 m^3 の減となりました。結果、有収率は96.2%となり、対前年度、0.2ポイントの減となりました。

次に、「イ財政状況」です。

17ページ下段から18ページ上段にかけてご覧ください。

総収益70億9,443万円に対し、総費用61億1,297万円となり、差し引き、9億8,146万円の当年度純利益となりました。

次に、資本的収支では、収入総額10億6,562万円に対し、支出総額51億556万円となり、差引不足額は、40億3,993万円となりました。

この不足額につきましては、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額3億1,367万円、減債積立金7億3,362万円、過年度分損益勘定留保資金29億9,264万円で補てんしました。

次に、「ウ建設改良事業」です。

記載のとおり、水道システムの再構築に取り組んでおり、平成29年から実施してきた柳が崎浄水場整備改良工事を令和4年12月に完了しました。改良事業では、年次計画に基づき、老朽鋳鉄管の布設替工事を実施しています。

続きまして、「エ公営企業の経営の健全化について」です。

財政健全化法(地方公共団体の財政の健全化に関する法律)に規定する資金不足比率については、0%以下となり、資金不足は生じていません。

「(2)経営指標に関する事項」については、経営の健全性を示す経常収支比率は、健全経営の水準とされる100%を上回っており、料金水準の妥当性を示す料金回収率も、事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況とされる100%を上回っています。

一方で、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率や更新した管路延長の割合を示す管路更新率は、前年度に比して悪化しています。

続きまして、19ページをお願いいたします。

「(3)議会議決事項」について、令和4年度において議会の議決を得た事項は6議案で、記載のとおりです。

「(4)行政官庁許認可申請事項」については、該当ありません。

続きまして、20ページをお願いいたします。

「(5)職員に関する事項」については、表の合計欄のとおり、令和4年度末の職員数は、前年度末240人に同じです。

「(6)料金その他の供給条件の設定、変更に関する事項」については、該当ありません。

それでは、引き続き、令和4年度大津市水道事業決算について、説明させていただきます。

決算書の6、7ページを、お開き下さい。

「令和4年度大津市水道事業決算報告書」です。

金額につきましては、税込みで表示しております。

まず、「(1)収益的収入及び支出」です。

収入の第1款水道事業収益ですが、当初予算額75億7,553万円に、補正予算額8,771万円を増額した、予算額合計76億6,325万円に対し、決算額は、77億1,526万円で、執行率は100.7%です。

第1項営業収益の決算額は、66億2,234万円で、主に、水道料金です。

第2項営業外収益の決算額は、10億9,242万円で、主に、加入金、長期前受金戻入です。

第3項特別利益の決算額は、48万円で、車両の売却に伴う固定資産売却益を計上したものです。

次に、支出、第1款水道事業費用ですが、当初予算額65億6,527万円に、補正予算額1億4,064万円を増額した、予算額合計67億592万円に対し、決算額は、64億1,632万円で、執行率は95.7%です。

第1項営業費用の決算額は、60億2,865万円で、主に、人件費、浄水場等の維持管理費及び減価償却費等です。

第2項営業外費用の決算額は、3億8,067万円で、主に、企業債利息です。

第3項特別損失の決算額は、700万円で、土地の所管換え及び建物の売却等に伴う固定資産売却損を計上したものです。

第4項予備費の支出はありません。

続きまして、8、9ページをお開き下さい。

「(2)資本的収入及び支出」です。

同じく金額は、税込みで表示しております。

収入の第1款資本的収入ですが、当初予算額14億4,140万円に、補正予算額1億6,681万円を減額し、地方公営企業法第26条の規定による繰越額に係る財源充当額2億6,587万円を加えた、予算額合計15億4,046万円に対し、決算額は、10億6,562万円で、執行率は

69.2%です。

第1項企業債の決算額は、8億5,930万円で、内容は、財務省、地方公共団体金融機構からの借り入れです。

第2項工事負担金の決算額は、6,917万円で、内容は、他事業者からの移設依頼や給水申請等に伴う工事負担金です。

第3項負担金の決算額は、1,858万円で、内容は、消火栓設置に対する一般会計からの負担金です。

第4項出資金の決算額は、6,695万円で、内容は、安全対策事業等に対する一般会計からの出資金です。

第5項補助金の決算額は、4,750万円で、内容は、国庫補助金です。

第6項固定資産売却代金の決算額は、410万円で、内容は、建物及び車両の売却に伴うものです。

次に、支出、第1款資本的支出ですが、当初予算額44億3,066万円に、補正予算額3億5,639万円を減額し、地方公営企業法第26条の規定による繰越額17億4,205万円を加えた、予算額合計58億1,632万円に対し、決算額は、51億556万円で、執行率は87.8%です。

また、翌年度繰越額は、4億8,241万円となっております。

第1項建設改良費の決算額は、38億3,272万円、第2項企業債償還金の決算額は、12億7,283万円です。

10ページをお開き下さい。

「令和4年度大津市水道事業損益計算書」です。この損益計算書は、令和4年度における事業の経営成績を明らかにするために、その期間中に得たすべての収益と、これに対応するすべての費用を記載したもので、金額は、税抜きです。

1営業収益は、給水収益や給水工事申し込みによる受託工事収益などで、合計60億2,604万円、2営業費用は、水道事業に係る人件費や経費などで、合計58億251万円で、差し引き、2億2,352万円の営業利益となりました。

3営業外収益は、加入金、長期前受金戻入などで、合計10億6,794万円、4営業外費用は、企業債支払利息などで、合計3億345万円で、差し引き、7億6,449万円となりました。

これと、営業利益を差し引きした、経常利益は、9億8,801万円となりました。

5特別利益は、44万円で、6特別損失は、700万円となり、結果、当年度純利益及び当年度未処分利益剰余金は、9億8,146万円となりました。

次の12、13ページをお開き下さい。

「令和4年度大津市水道事業剰余金計算書」です。金額は同じく、税抜

きです。

これは、資本金、資本剰余金、利益剰余金の変動を表すものです。

上段左端から、資本金です。

資本金は、前年度末残高347億4,000万円に対して、前年度処分額6億8,740万円を加えた、処分後残高は、354億2,740万円となりました。

当年度変動額は、8億57万円の増加となり、結果、当年度末残高は、362億2,798万円となりました。

次に、受贈財産評価額及び工事負担金の合計である資本剰余金合計の前年度末残高8億1,108万円に対して、前年度処分額、及び当年度変動額は、なく、当年度末残高は、同額となりました。

次に、その右側、利益剰余金です。

利益剰余金のうち、未処分利益剰余金の前年度末残高14億2,101万円につきましては、大津市水道事業、下水道事業及びガス事業の設置等に関する条例第4条の5の規定により、繰延収益相当額として6億8,740万円を自己資本金へ組み入れ、また、減債積立金の積立てとして7億3,361万円を積み立てました。

結果、利益剰余金の処分後残高は、9億4,197万円となりました。

これに、当年度の変動額2億4,784万円を加えた利益剰余金合計は、

11億8,981万円となりました。

資本金と剰余金を合わせた資本合計の当年度末残高は、一番右の行の最下段、382億2,887万円となりました。

12ページ下をご覧ください。

「令和4年度大津市水道事業剰余金処分計算書」です。金額は同じく、税抜きです。

まず、資本剰余金の処分については、なく、決算で生じました未処分利益剰余金の処分につきましては、大津市水道事業、下水道事業及びガス事業の設置等に関する条例第4条の5の規定により、繰延収益相当額である7億4,367万円を自己資本金に組み入れ、残額の2億3,778万円を、減債積立金に積み立てるものです。

結果、資本金残高は、369億7,166万円となり、資本剰余金残高は、8億1,108万円、繰越利益剰余金残高は、0円となります。

14ページをご覧ください。

「令和4年度大津市水道事業貸借対照表」です。

貸借対照表は、事業の財政状態を明らかにするために、令和5年3月31日の時点において、保有する全ての資産、負債及び資本を総括的に表示したものです。

最初に資産の部です。

(1)有形固定資産は、土地、建物などで、合計は、625億2,768万円、(2)無形固定資産は、施設利用権、庁舎使用権、ソフトウェアなどで、合計は、2億3,105万円、(3)投資その他の資産は、その他投資として、出資金560万円を計上しています。

以上、固定資産合計は、627億6,433万円です。

2流動資産は、現金・預金、未収金などで、合計は、52億6,895万円で、資産合計は、680億3,329万円となりました。

続きまして、15ページをお願いいたします。負債の部です。

3固定負債は、企業債並びに退職給付引当金で、合計は、148億313万円、4流動負債は、企業債並びに未払金などで、合計は、28億5,156万円、5繰延収益は、長期前受金で、このうち、既に収益化したものを除いた額は、121億4,971万円となり、負債合計は、298億441万円となりました。

続きまして、16ページをお願いいたします。資本の部です。

6資本金は、362億2,798万円、7剰余金は、資本剰余金、利益剰余金で、20億89万円、資本金と剰余金を合わせた資本合計は、382億2,887万円で、負債資本合計は、680億3,329万円であり、資産合計と一致し、貸借均衡しております。

続きまして少し飛びますが、26ページをお願いいたします。

なお、22から25ページには、令和4年度に契約しました主な工事を記載しております。説明は省略させていただきます。

「3業務」、「(1)業務量」については、先ほど事業報告で説明したとおりです。

「(2)事業収入に関する事項」のうち、事業収益は、60億1,044万円で、対前年度3,855万円の減で、主に、給水収益や加入金が減少したことによるものです。

受託工事収益は、1,559万円で、対前年度598万円の減、営業外収益は、10億6,794万円で、対前年度1,170万円の減、特別利益は、44万円となりました。

次に、「(3)事業費に関する事項」のうち、事業費用は、57億8,551万円で、対前年度4億1,241万円の増で、主に、維持管理費や固定資産除却に伴う資産減耗費など、経費の増加によるものです。

受託工事費用は、1,700万円で、対前年度332万円の減、営業外費用は、3億345万円で、対前年度3,276万円の減で、主に、企業債支払利息の減少によるもの、特別損失は、700万円となりました。

27ページをお願いいたします。

「4会計」ですが、「(1)重要契約の要旨」については、契約満了に伴い、改めて締結した水道施設運転管理業務委託を記載しております。

「(2)企業債及び一時借入金の概況」のうち、「ア企業債」は財務省、地方公共団体金融機構からの借り入れで、前年度末残高の計は、157億9,613万円、本年度借入高は、8億5,930万円、本年度償還高は、12億7,283万円、本年度末残高は、153億8,259万円となりました。

「イ一時借入金」は、ありません。

「5その他」です。

「(1)決算日後に生じた企業の状況に関する重要な事実」は、該当ありません。

「(2)他会計負担金等の使途について」は、消費税の申告にあたり記載しているもので、説明は省略させていただきます。

また、29ページにはキャッシュ・フロー計算書を、30ページから32ページは、決算に関する注記事項を、33ページから38ページは、収益費用明細書を記載しております。

説明につきましては、省略させていただきます。

次に、40、41ページをお開き下さい。「固定資産明細書」です。

「(1)有形固定資産」の年度当初現在高合計は、1,226億3,607万円、当年度増加額は、89億3,791万円、当年度減少額は、64億3,975万円、年度末現在高は、1,251億3,423万円となりました。

た。

また、減価償却累計額の当年度増加額は、26億4,511万円、当年度減少額は、7億3,128万円、累計は、626億654万円、年度末償却未済高は、625億2,768万円となりました。

「(2)無形固定資産」の年度当初現在高合計は、7,965万円、当年度増加額は、1億6,823万円、当年度減少額は、2万8千円、当年度減価償却高は、1,679万円、年度末現在高は、2億3,105万円となりました。

「(3)投資その他の資産」の年度当初現在高合計は、560万円、当年度増加額は、なく、当年度減少額も、なく、年度末現在高は、560万円となりました。

次の42ページから51ページまでは企業債明細書を記載しておりますが、説明は省略させていただきます。

以上、令和4年度大津市水道事業会計の決算についての説明とさせていただきます。